

日本語学習奨励事業として大きな役割

—マレーシア日本語弁論大会事情



マレーシア日本語弁論大会一般の部（2014年5月、クアラルンプール）の出場者の皆さん

日外協の「日本語スピーチ・コンテスト優秀者日本招聘事業」は、ASEAN各国で開催されている日本語スピーチ・コンテストの成績優秀者を招聘して実施されている。ここでは、筆者が2010年から2014年末まで駐在したマレーシアを事例に、現地の日本語弁論大会事情をお伝えしたい。

マレーシアにおける日本語弁論大会は、在マレーシア日本国大使館、国際交流基金クアラルンプール日本文化センター、マレーシア日本人商工会議所、クアラルンプール日本人会の4者共催により実施されており、国際交流基金クアラルンプール日本文化センターが幹事団体として運営の実務を担当している。また、実施にあたっては元日本留学生同窓会組織のご協力や、現地日系企業から多くのご協賛をいただいている。

大会は、現地の日本語教育事情を反映して、「高校生大会」「予備教育課程の部」「一般の部（大学生・成人向け）」の3区分で開催しており、それぞれに様相が異なる。このうち日外協の招聘事業に参加するのは「一般の部」の優勝者および準優勝者であるが、各大会の特徴を簡単にご紹介したい。

高校生大会

—質疑応答で得点に差も

マレーシアでは、国際言語教育政策や東方（ルック・イースト）政策の下、全国で約140校の中等

独立行政法人 国際交流基金
元クアラルンプール日本文化センター
磯ヶ谷浩之

学校（日本の中学校～高校2年生に相当）において選択科目として日本語科目が設置されている。そこで日本語を学習している生徒や民間語学学校などで日本語を学習している中等学校生が本大会に出場する。日本語教師の指導をみっちり受けて完璧なスピーチを披露する生徒も多く、スピーチ後の質疑応答で得点に差がつくことも多い。入賞常連のエリート校の代表として周囲の期待を一身に背負って出場した少年が、優勝を逃して涙していた場面もあり、強く印象に残っている。

参加者の緊張をほぐすために、開会前に参加者同士で交流するアイスブレイキングを行うなどの工夫もしている。

予備教育課程の部

—最も高い日本語レベル示す

マレーシアには、やはり東方政策の下、優秀な学生を日本に留学させるため、1～2年かけて日本語や教科の準備教育を行う特別課程（予備教育課程）を有する学校が4校存在する。うち1校には私費の学生もいるが、それ以外は全員がマレーシア政府ないし政府関係機関の奨学金を受けている特待生である。すなわち、本大会の参加者は、全員が日本留学を前提に勉強している優秀な学生であり、日本語レベルは最も高い。大会は、参加する4校の対抗戦の様相を呈しており、観客席に